# 推進校別事業報告書

＜取組と成果のポイント＞
・全職員参加の授業研究を積み重ねることによって、多くの教員が、自信をもって道徳の授業に取り組むことができるようになった。
・道徳の時間で学んだ道徳的価値を実践する場として、地域を巻き込んだ活動や学級での活動を意図的に取り入れることによって、道徳的実践力を向上させることができた。
・全校一斉の道徳の公開授業など道徳の授業を公開することによって、保護者の道徳に対しての関心が高まった。

１　推進校（又は推進地域）の概要

| 学　校　名 | 所　在　地 | 電 話 番 号 | 児童生徒数 |
|---|---|---|---|
| 田原市立赤羽根小学校 | 田原市赤羽根町西瀬古87番地 | 0531(45)2023 | １２３人 |

２　研究課題
（１）道徳教育の計画的な推進と道徳の時間の指導の工夫
　① 効果的に思いやりの心を育てる道徳授業の構想と実践
（２）家庭や地域社会と連携を図りながら、体験の中で道徳的価値の深化を図る工夫
　① 道徳的価値を理解させるために、道徳の時間と体験活動を互いに有機的に機能させ、自己肯定感を感じさせるとともに、相手のよさに気づくことのできる授業の実践を目指す。
　② だれに対しても思いやりの心をもって接し、自分の役割を自覚して、集団の向上のために進んで活動できる実践的態度を育てる場の工夫を目指す。

３　研究主題と設定理由
（１）　研究主題

思いやりの心を育て、生き生きと活動する「あかはにっ子」の育成
―家庭や地域と連携した活動を生かした道徳教育を通して―

（２）　主題設定の理由

本校の教育目標は、「心身ともに健やかで、知・徳・体の調和のとれた『あかはにっ子』の育成」である。

小学校においては、生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導に力を入れるとともに、自分の生き方についても考えられるようにする必要がある。しかし、子どもを取り巻く環境の変化、家庭や地域社会の教育力の低下、体験活動の減少等の中で、子どもの心の活力が弱まってきている傾向が見られる。

したがって、基本的な生活習慣の確立や、人間としてしてはならないことを判断する力など社会生活を送る上で身に付けさせるべき最低の規範意識、自他の生命の尊重、弱者を含めた他者への思いやりなどの道徳性を養うとともに、主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てることを重要課題として取り組んでいく必要性を感じている。そして、これらの基盤となるのが、思いやりの心であると考えている。

本校では、平成２３年度に田原市教育振興基本計画が策定されたことを受け、「ふるさと教育」を教育課題の中心に位置づけ、食育と関連させて「ふるさと赤羽根を愛する子どもの育成」を目指した教育活動に取り組んでおり、地域との交流の機会がある。そこで、このような交流を道徳教育の一環として位置づけることによって、道徳の時間で育まれた思いやりの心をより深め、より道徳的実践力を鍛える場と考え、『思いやりの心を育て、生き生きと活動する「あかはにっ子」の育成』をテーマとして、家庭や地域と連携した活動を生かした道徳教育を推進していきたい。

## 4　研究の概要

研究主題に示した子ども像の具現を目指す。道徳の時間の効果的な指導方法を工夫し、自己理解・他者理解を進めながら、他者への思いやりの心を育む。また、家庭や地域と連携しながら、地域の中での体験活動を通し道徳的実践力を培う研究を進める。

（１）　研究仮説

道徳の時間に「思いやりの心」や「感謝する心」などの道徳的価値を学び、その実践の場として、地域の人々との交流や学校行事を位置づけ、人と積極的に関わり人を思いやる情操を高めることにより、思いやりの心をもち、集団の向上のために進んで行動できる「あかはにっ子」が育つであろう。

（２）目指す児童像

＜１・２年生＞　だれとでもなかよく遊び、助け合うことができる。

＜３・４年生＞　相手のよさを理解し、相手の気持ちを分かろうとする。

＜５・６年生＞　相手の気持ちを考えて、適切に行動することができる。

（３）　研究組織

（４）　研究の内容

①　要としての道徳の時間の充実

・毎週の道徳の時間を大切にする。

・ねらいを達成するためのアプローチを探る。

・低、高学年部会ごとで事前研究を深め、全学級で授業研究を行い、授業力を高める。

②　全教育活動における道徳教育の充実（道徳的価値を実践化させる場の設定）

③　家庭や地域との連携（道徳の授業公開、ゲストティチャーを迎えての授業や学校行事等）

（５）　研究計画

１学期：全体計画、あかはに探検隊、祖父母学級、授業実践、ボディーボード体験学習
　　栽培活動

２学期：授業実践、全校一斉公開授業、講演会、栽培活動

３学期：栽培活動、研究のまとめ、成果を発信

## 5　これまでの取組と成果

（１）道徳の時間の充実

①　全職員参加の研究授業

研究授業実践にあたり、全学年各１回の講師招聘の授業研究を行い、以下のような観点を中心に研究協議を行い、ご指導をいただいた。

ア　道徳の時間の指導の工夫はされていたか。

・ねらいにせまる授業スタイル（導入、展開、終末）であったか。

・発問は工夫されていたか。

・板書は工夫されていたか。

イ　道徳的価値を実践化させるための配慮（工夫）についてはどうか。また、もっと効果的なことは何だろうか。

②　成果

資料が子どもたちにとって分かりやすいものになるような提示方法の工夫を協議し、学年の発達段階に即した工夫をこらすことができるようになった。また、効果的な授業の終末や発問についても多くの教師が自信をもって行えるようになってきた。

（２）道徳の時間と体験等を有機的に機能させた実践

＜だれとでもなかよく遊び、助け合うことができるために！（低学年）＞

○　資料「くりのみ」を通しての実践（１年生）

ア　資料「くりのみ」を通しての実践

「くりのみ」の資料を用い、きつねの気持ちを共感的に捉えることにより、きつねの涙の意味を考えさせた。授業後、うさぎさんに書いた手紙には、

・これからは、おとうとにもおかしをわけてあげます。
・なにかもらったら、おともだちにもあげるね。

など、うさぎの行為を自分の思いとして受け止め、うさぎのような優しさ、思いやりある心を持ちたいという思いが感じられた。

イ　道徳の時間で学んだ価値を実践化するために

■「心あったか、合い言葉」を考えよう

「くりのみ」の授業で助け合うことの大切さを学んだ。その思いを持ち続け、日常の生活の中で行動に移すことができるよう「心あったか、合い言葉」を考えた。

・うさぎさんみたいになろう。
・友だちのことをかんがえよう。

など、温かい言葉がいくつか出た中で、たくさんの子ども達がうさぎさんへの手紙の中で書いていた“やさしいひとになりたいな”という合い言葉ができあがった。いつも目に付くように教室内に掲示し「うさぎさんみたいにがんばろう。」「やさしいひとになれているかな？」等々、自分自身を振り返らせることにより、道徳的価値を一人一人の心の中で確かなものに醸成していきたいと考えた。

（３）　家庭に学び、地域と結び、地域とともに育つことのできる連携の提案

ア　授業参観（９月２６日）で全校一斉道徳授業を実施

道徳の授業の一斉の公開授業を通して、保護者が本校で行われている道徳教育を理解し、道徳教育への関心を高めることができた。また、家庭でも道徳に関する会話が増えた。

＜保護者の感想＞
・普段きちんと相手の気持ちを考えることや相手のことを思って行動するということがなかなか難しいですが、授業したことによって自分の行動を見つめ直すことができたのではないかなと思います。
・学校の中で色々なことを覚えてお友達とも仲良くできてとても喜んでいます。

イ　外部講師による教育講演会の実施

交通事故で障害を持った講師を招き、「思いやりをもって生きる」という演題で、教育講演会を実施した。保護者にも参加を呼びかけた。保護者は３０名程度の参加があり、「思いやりをもって生きることは、周りの人や思いやりをもって生きる自分自身を幸せにする」という言葉が心に響き、子ども・親・教師が素晴らしい時間を共有することができた。

＜保護者の感想＞
・事故後の思いや周りの支え等がとても分かりやすく伝わってきました。頑張っている姿や歌を聴いて私自身励まされました。
・家族の思いやりを深く感じさせられました。寺島さんのように“あきらめない”精神で、子どもたちもこれから育っていって欲しいです。

ウ　「読みきかせ」活動の活用

１０年以上前から本校は、１５名の読みきかせボランティアの協力をいただき、読みきかせ活動を毎週木曜日の朝、実施してきている。本年度は、道徳の時間だけでなく、読みきかせの時間も道徳的心情を高める時間と位置づけ思いやりの心を育む絵本（「あのときすきになったよ」「あなたってほんとにしあわせね」など）を意識した本の選定を依頼した。児童は、毎週この時間を楽しみにしており、読みきかせに夢中で聞き入っている。

エ　全校活動の取り組み

○あかはに探検隊（５月１日実施）

「あかはに探検隊」と称して、全校児童を６つの縦割りグループに編成し、ＰＴＡ委員や地域の方の協力を得て、ふるさと赤羽根の自然や産業を訪ねるウォークラリー体験を実施した。校区内の施設園芸を見学し、トマトやイチゴを食べさせていただき、農家の人々とふれあうことで感謝するとともに、働く人々の意気込みを感じ取っている。また、高学年は、低学年の歩くペースを考えながら歩くなど、下級生への思いやりの情操を高める場となった。

赤羽根の海岸清掃を、参加した保護者と共に全校で協力し合って行い、ふるさとの美しい自然を守る気持ちを高めた。

○学級農園

本校では、子どもたちの「野菜作り」に必要なすべての活動（苗の植付け・栽培・収穫・調理）を、「にんじんの会」という生産者グループの方々に指導していただいている。この農業体験活動を通したふれあいの中で、子どもたちは栽培の難しさや収穫できた喜びを知り、収穫祭を行って、「にんじんの会」の方々への感謝の気持ちを伝えている。

にんじんの会のみなさんへ＜夏野菜の収穫祭にて＞
　野さいの育て方を教えてくれてありがとうございます。また、毎日、給食の野菜を作ってくれてありがとうございます。これからも長生きして赤羽根小学校に野菜の育て方を教えに来てください。（３年児童）

○ボディーボード体験学習（７月２２日実施）

４～６年生が赤羽根港の東海岸で保護者と共にボディーボードを体験している。太平洋の波に戯れ、海の美しさとすばらしさ、ボディーボードの楽しさを味わっている。親子でペアとなり、子どものボディーボード体験を親が支援する方法で、学年ごとに実施している。ボディーボードの指導と安全確保については、サーフィン協会・ＰＴＡ委員さん等の協力を得て行っている。子どもたちは、この活動を通して、多くの人たちの支えや思いやりを実感し、感謝する心を育んでいる。また、全員で海岸を清掃し、青い海や白い砂浜といった美しいふるさとの自然を守るという気持ちを高める機会ともなった。

6　研究の評価

（1）　研究の成果

年間を通して授業研究を積み重ねることによって、教員が自信をもって道徳の授業に取り組むことができるようになった。さらに、学校行事や学級活動を工夫し、道徳の時間で学んだ道徳的価値を実践する場とすることで、道徳的実践力を向上させることができた。さらに、道徳の授業を公開したり、教育講演会を行ったり、地域の方と活動を行ったりすることによって、地域の皆さんや保護者の道徳に対しての関心を高めることができた。

（2）　今後の課題と取組

今まで以上に、児童の道徳的価値を理解させるための道徳の授業のあり方の工夫を進める必要がある。また、自他の命の尊重や他者への思いやり等の道徳性を養うとともに、「気づき、考え、主体的に行動できる子」を育てていくことも重要である。さらに、学校の教育活動と家庭や地域との連携をより活性化させ、地域全体で子どもの道徳性を養っていく体制づくりも必要である。